



「学園構想」を市内外に広く周知することと、地域住民が「子どもの育成」に自分事として関わることを目的に、飛騨市教育フォーラム2021「まなびみらい会議」を開催しました。市内外から150人に参加いただき、「人が育つ地域をどう創るか」をテーマに、これからの地域の教育や学びについて考えるひと時となりました。

◆世代や立場を越えた「学び」

「基調講演」では、文科省調査官の長田氏が「社会に開かれた教育課

程とは」と題して講話されました。

子どもが地域の大人と関わる中で、大人からの声かけや協働が、子どもの力を伸ばすと説明されました。後半のパネルディスカッションでは、市長が進行役を務め、4人のパネラーがそれぞれの立場から、「学校・地域における学びの現状と課題」について発言されました。

前後半を通して、学園構想の目指す「社会総がかりで子どもたちを創り手に育てる」と「創りたい地域像」に大変参考となる内容でした。

◆まちなかが「学び」の場に

分科会は、まちなか4会場で行うという、地域で学べる環境づくりに挑戦しました。各会場では、講師の熱い語りに参加者が深く考え聴いていました。特に、円光寺で行われた「ワークショップ」では、地元の中高生が熟議する姿は未来の創り手として頼もしさを感じました。

◆これからの「学び」に向けて

参加者から「子どもたちだけでなく、大人も学び続ける学校づくり、地域づくりが希望の未来に繋がるのだと感じました」と感想をいただきました。こうした皆さんの熱い思いに応え、そして「大人の課題解決学習」として共に考えるフォーラム（会議）を今後も定期的で開催していきたいと考えています。今後も皆さんの学園構想関係行事へのご参画と、SNS等、学園構想の情報発信に対してご意見やご提案をお知らせください。



問 学校教育課 ☎0577-73-7494



飛騨の冬はフレッシュな薬草がなかなか手に入られません。ミネラルは毎日代謝などで消費されるので、努めて体に取り入れたいですね。

そのため、日常何気なく使っているものに薬草はあるという例をお伝えします。

寒い時期はシチューやカレーは体が温まるので家でもよく作ります。その時に入れるのがゲツケイジュ。ローレルとも言いますね。これを入れると肉の臭みが抑えられ、香味が深まり、食が進みます。

ゲツケイジュは香りが良いだけでなく、芳香性健胃効果があり、食欲を増進してくれ、リウマチや神経痛などの体の痛みを軽減します。体の痛みをとる効果は葉っぱをお風呂に入れても効果があり、リウマチや神経痛、打ち身、捻挫、腫れ物、皮膚病などに効果があります。また、あの独特の香りがイライラや不安を取り除いてくれますし、ニンニクのホワイトリカー漬の匂いが強すぎると感じた時にも匂いを抑えることができます。

葉っぱは煎じて飲むことで肝臓を強め、元気にしてくれます。そして葉っぱや実をホワイトリカーに漬ければ、胃腸を整え、代謝を高め、疲労を回復し、食欲増進、強壮強精効果があり、肌をきれいにするという効果を冬の間もその恩恵にあずかることができます。

ゲツケイジュは先月ご紹介したサ

フラン同様日本で栽培ができるようになったのは明治時代と新しい薬草（薬木）です。育てやすい木なので、これだけの効果が期待できるのならば鉢で、もし場所があれば庭や畑で植えたいですね。



参考：村上光太郎「薬草を食べる」より

効 能	芳香性健胃整腸、食欲増進、リウマチ、神経痛、体の痛み、打ち身、捻挫、腫れ物、皮膚病、疲労回復、食欲増進、強壮強精
採取先	スーパー、畑など

問 地域振興課 ☎0577-62-8904

こんにちは 市民病院です

研修医に大人気の
飛騨市民病院

飛騨市民病院 管理者兼病院長 黒木嘉人

飛騨市民病院は2005年には12人の常勤医師がいましたが、2013年には3人まで激減しました。「新医師臨床研修制度」の影響で医学部卒業後、富山大学に残って研修する医師が減少し、そのため当院への常勤医師派遣も十分得られなくなったものです。そんな苦境を打破し、なんとか医師を集めるために教育研修に力を注ぐことにしました。

医学部卒業後2年間の初期研修医の間には最低1カ月は地域の病院での「地域医療研修」が必須となって

います。これまで岐阜県、富山県そして愛知県の病院と協定を結び、当院での地域医療研修受け入れを働きかけたところ、年々研修医の数が増加し現在では年間30人程の研修医が当院に来てくれるようになりました。

これにより常勤医の5人に加え、平均して約3人の研修医が常にいることになるので、合計約8人の医師を確保したことになります。研修医たちも当院での研修に大変満足しており、最近では逆にあちこちの病院から当院で研修を受け入れて欲しいと頼まれるようにまでなりました。ここまで10年かかりました。

その人気の要因は、研修医が主体性をもって診療できる体制にあることと、常勤医師たちがしっかり丁寧に指導していることにあります。研修室や宿舎についても快適に過ごせるように整備してあります。さらに

住民の皆さんや当院スタッフが、やさしく研修医たちを迎えてくれ、飛騨の美しい自然や風土も大きな魅力となっています。詳細は飛騨市民病院のホームページにも掲載してありますので、ぜひご覧ください。2022年度も30人を超える初期研修医の受け入れを予定しておりますし、さらに初期研修が終わって内科や総合診療の専門医を目指す「専攻医」も当院に来てくれる予定です。

ますます飛騨市民病院の教育研修体制が魅力あるものとなり、若い医師たちが集まる病院となってきました。今後はさらに地元出身の医師たちも含めて、多くの医師が常勤医師として当院で活躍してくれることを願うばかりです。



問 飛騨市民病院
☎ 0578-82-1150



そろそろ 終活

<その22> はじめませんか？

老老介護を 防ぐために

平成25年の厚生労働省が行った国民生活基礎調査では、在宅介護している世帯のうち51.2%が『老老介護』の状態にあるという結果が報告されています。また『老老介護』の中には、自ら認知症の症状が現れてきても自覚がないまま介護を続けているといった場合も考えられ、いずれ『認認介護』へ移行する心配も少なくありません。

今は、介護とは無縁の生活を送っていたとしても、子どもと離れて暮らす人や、身寄りのない人にとって

は将来、介護が必要になったらという心配は、誰にもあるはずですよ。

健やかな生活をできるだけ長く続けるための習慣の一つとして、かかりつけ医に定期的に受診できると良いですね。ちょっとした症状でも違和感を抱いたら、面倒がらずにかかりつけ医に相談する習慣があれば、以前との変化による病気の兆候に気づいてもらいやすいです。

そしていよいよ介護が必要になるようなら、やはり早めに地域包括支援センターに相談することです。『頼れる子どもや親戚がない』『人に頼ることが苦手』『介護を受けるお金の余裕がない』などの理由で、老老介護のまま社会から孤立してしまうことも少なくありません。介護保険制度では、40歳以上の国民すべてが介護保険料を納める義務があるのですから、必要になれば公的介護支援制度を利用しましょう。

また要介護認定を受けなくても、65歳以上の高齢者は「基本チェックリスト」により、生活機能の低下がみられれば『事業対象者』として介護予防サービスを利用できます。該当者判定までの期間も短く、介護認定よりも簡易に手続きができます。サービス内容は飛騨市地域包括支援センターで確認できます。

終活で介護を考える時、高齢者だけの世帯や独居になることが予想され、将来への不安があれば、体力と判断力があるうちに準備や心構えをしつつ、健康寿命を高める意識を持って毎日を過ごしたいものです。

終活巡回相談日（要予約）

■ 2月25日（金）

古川町公民館 9:30~16:00

問 予 飛騨市終活支援センター
（飛騨市社会福祉協議会内）

☎ 0577-73-3214